

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年6月23日（金）

2 確認箇所

既設ALPSサンプルタンク

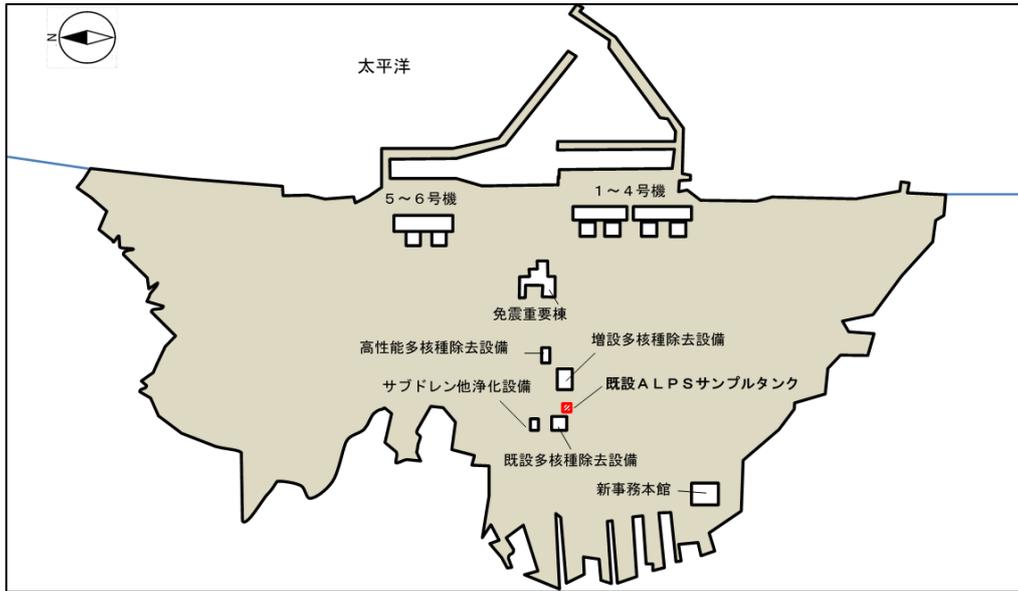
3 確認項目

既設ALPSサンプルタンク堰内水における通常より高い濃度の放射性物質の検出の状況

4 確認結果の概要

既設多核種除去設備（以下「既設ALPS」という。）で処理された水は、サンプルタンク（フランジ型）に移送される。東京電力が、6月15日に既設ALPSサンプルタンクの堰内雨水を雨水処理設備へ移送するためにサンプリングを実施したところ、6月23日にトリチウム濃度が33,000 Bq/L、ストロンチウム90濃度が9.8Bq/L 検出されたことから、現場の状況を確認した。（図1）（写真1）

- ・既設ALPSサンプルタンク堰内には、雨水等が数cm程度の深さで溜まっている箇所があった。（写真2）
- ・既設ALPSサンプルタンク、配管及び弁等を目視確認したが、確認した範囲では、水の漏えい等は確認できなかった。（写真3）
- ・東京電力によると、当該事象が発覚後、水の漏えい箇所を特定するため、目視確認を実施したが、特定に至らなかったため、配管の保温材を撤去して内部を確認する等、本格的な漏えい箇所の特定作業を実施するとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
既設ALPSサンプルタンクの外観



(写真2)
既設ALPSサンプルタンク堰内の
状況



(写真3-1)
既設ALPSサンプルタンクの一例



(写真 3 - 2)
堰内の配管の一例



(写真 3 - 3)
堰内の弁の一例

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。